

2年学年通信



立志式が行われました

5日(月)に立志式が行われました。様々な方々からお祝いの言葉をいただき、立志者代表として松田夏凜さんが市民憲章を朗読し、林わか菜さんが立志の言葉を述べました。そして、記念講演として北國銀行ハンドボール部 HoneyBee の東俊介監督にお話しいただきました。みなさんは何を感じ、何を決意しましたか? 「志を立てる」とは、必ずしも将来の夢を決意することだけではありません。自分がどんな人になりたいか、どんな人生を送りたいのかを考え、努力を始めるきっかけになるといいですね。



本日は、私たちのためにこのような心温まる立志式を開催していただき、本当にありがとうございます。

先ほどからのご挨拶をはじめ、ご来賓の方から心温まるお祝いのお言葉をいただき、改めて立志を迎えられたことを幸せに感じ、身も心も引き締まる気持ちでいっぱいです。

今日、私たちが立志を迎えることができたのも、両親をはじめ、先生方や地域の方々に温かく見守っていただいたおかげと感謝しています。

私たちは、入学した時から今日この時まで、日々の学校生活や部活動、ボランティア活動を通してたくさんのことを学んできました。そして今、この瞬間から責任感のある礼儀正しい立派な大人へと成長していかなければならないと感じています。自分自身でしっかりと物事を見つめ、考え、決断し、夢や目標に向かって日々努力することを惜しまず、強い意志で人生の道を進んでいきたいと感じています。

今日というこの日を忘れることなく、これまでお世話になった方々に少しでも恩返しができるよう、将来に向けて一人一人が決意した目標に向かっていくことを誓い、立志の言葉とさせていただきます。

令和六年二月五日

立志者代表 林わか菜

生徒の感想より

- 記念講演の「相手がされて嫌なことはしない。相手がしてもらってうれしいことをする」や「努力するクセとサボるクセ、たった一人、自分がダメできないと思ったら夢は叶わない」という言葉がとてもなるほどなと思いました。中学生で思春期の僕たちにとって共感できる内容で、何をやるにしても頑張るのも、頑張らないのも、やめるのも、やめないのも決めるのは自分ということがよくわかったし、後悔しないように一生懸命頑張ろうと思いました。
- 中学2年生の立志式という大きな節目を終えて、少し大人に近づいたと思います。東さんの講演を聞いて、今までと心を入れかえたいと思います。自分に苦手なことがあっても、毎日少しずつ努力すれば、できなかったことができるようになって、いやいやしていたことが楽しくなって、したいと思える心が芽生えると思うので、たくさんのチャレンジをして努力する習慣をつけていきたいです。

裏につづく

- ・僕も夢があるので、すごく勉強になったし、真似してみたい事がたくさんありました。これからの部活でみんなよりもたくさん練習して「日本一」の選手を目指して頑張りたいし、周りの人から何かを言われたとしても、自分の中で成長できたらそれで僕はうれしいので、頑張りたいし、思いやりの心を持ってこれからいろんな人と関わっていきたい。
- ・出来ないを出来るようにするためには自分から変わらないといけないんだと思いました。出来るか出来ないかは他人が決めるんじゃなくて、自分が決めるんだというお話を聞いて思いました。また、思いやりという言葉は、自分がされて嫌なことをしないというんじゃなくて、相手がされて嫌なことはしない、嬉しいことをするという言葉なんだなと思いました。努力をして夢が叶わなくても、それはむだなことではないと思いました。今日のお話を聞いて、さらに勉強や部活動を頑張りたいなと思いました。
- ・「『夢や目標に向かってできる限り努力すれば叶う』とよく言われているけれど、絶対に叶うと約束されているわけではない。『成功』ではなく『成長』できる」という言葉にはっとした。一生懸命やっても叶わないかもしれないけれど、「やってよかった」と思える結果につながることができるし、一生懸命やったからこそ「だからしあわせだ」と胸を張って言う事ができるのだと思う。それくらい頑張って打ち込める事を見つけたくなった。
- ・東さんの講演を聞いて、口で言うのはとても簡単だけど、行動、習慣づけることの大切さをあらためて知りました。最後の「レンガ職人」の話もそうだけど、目標を決めるだけで成功したり、成長したりはできないけど、夢を立ててどう感じるかなどもすごい大切だとわかりました。私は今はまだまだまった夢を持っていないけど、夢を持った日がきたら今日のことを思い出したいです。



記念講演

「立志」とは

「立志」という言葉を知っていますか。国語辞典でその意味を調べてみると、「志を立てること。目的を定めて、これを成し遂げようとすること。（広辞苑第五版）」とあります。つまり、「立志」とは、人生に目的を持ち、それを成し遂げようとすることです。

14歳を迎える中学2年生が、自ら将来にのぞんで、志を立て、次代の社会を担うものとしての誇りと自覚を持ち、さらに志を実践するための健康な心身をつくることを目標に、青年への新しいスタートに立つ日を「立志の日」として祝い、励ます式が、立志式です。

14歳の心構え

14歳になることで、何を考えたらよいのでしょうか。14歳の心構えをいくつかあげておきます。ぜひ、自分なりに考え、自分の考えを持ってください。そして、少しでも日常生活を向上させていってください。そのことが、立志式の最大の目的です。

- ・自分の「身体」がどれくらい大人になっているのか
- ・自分の「心」がどれくらい大人になっているのか
- ・法的に見て「責任年齢」に達しているということはどういうことなのか
- ・自分は将来、どのような希望や目標を持って生きていくのか。そのために、今をどう生きたらよいのか